

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	水道記念館管理業務事業			事業コード	1265
所属コード	906102	課等名	上下水道局米内浄水場	係名	
課長名	関村誠一	担当者名	高橋昇	内線番号	6900
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	いつでも信頼される浄水道事業の推進	コード	5
	基本事業	安定給水の確保	コード	1
予算費目名	水道事業会計 1 款 01 項 10 目 水道記念館管理業務事業 (013-10)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 59 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

水道使用者に対する水道事業の啓蒙・PR

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 59 年に盛岡市水道事業創設 50 周年を記念して旧管理事務棟を記念館として開館した。その後、平成 11 年に登録有形文化財として登録されたのを契機に平成 14 年に展示内容をリニューアルし現在に至る。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

- ・水道記念館は、盛岡市の保存建造物に指定されており創設当時の現状を損ねるような改修はできない。むしろ保存建造物は創建時の状況に近づけることが望ましいとされている。
- ・当記念館は米内浄水場の敷地内にあり、また、米内地区には、クリーンセンター、リサイクルセンターが立地していることから、環境学習を目的とした来場者が多い。
- ・平成23年3月及び4月の震災で被害が発生したため閉館としている。
- ・文化財関係国庫補助については、これまであった「修理事業費国庫補助」のほかに、平成 23 年 4 月から「公開活用事業費国庫補助」が新たに設けられた。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

米内浄水場来場者

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績	26年度見込み
A 施設見学者	人	21,582	17,375	37,600	23,751	37,600
B						
C						

(3) 24年度に実施した主な活動・手順

- ・建物現況構造調査を実施した。また、保存活用計画策定のための予算措置等、準備を行った。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績	26年度目標値
A 水道記念館見学者	人	2150	0	0	0	4,000
B 水道記念館公開日数	日	230	0	0	0	230
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

- ・盛岡市の水道事業及び水の大切さを理解してもらう。
- ・自然環境の大切さを理解してもらう。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績	26年度目標値
A 水道記念館見学率＝(水道記念館見学者/施設見学者)×100	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	9.96	0	0	0	10.64
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績
事業費	①	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤		千円	0	0	0

人件費	⑥延べ業務時間数	時間	87	0	0	0
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	348	0	0	0
計	トータルコスト A+B	千円	348	0	0	0
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

小学生の社会科見学, 一般市民の施設見学を主体に水道の大切さ, 水環境保護の重要性を啓蒙する目的で, 保存建造物を活用している。

② 市の関与の妥当性

ライフラインとしての水道の重要性を理解してもらうためにも, 啓蒙・PRの一環として水道事業を経営している市が行うことが妥当である。

③ 対象の妥当性

展示物の拡充が求められており, そのためには保存建造物の改造が伴う。

④ 廃止・休止の影響

盛岡市水道事業の歴史, 水環境保護を目的とした啓蒙・PR活動に支障をきたす。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

- ・創設時以外の展示物を他の公開浄水場に統合する。
- ・展示内容を1箇所集中することで学習成果が向上する。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

- ・水道利用者以外にも開放している。
- ・盛岡市水道事業の啓蒙・PR事業の一環として実施しているものであり, 受益者負担はなじまない。

(4) 効率性評価

展示物を工夫することにより職員の付き添いを減らせる余地があるが, 主に施設見学の一工程としての利用形態となっており, 記念館見学の前後には, 説明が必要となるため人件費の削減にはならない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

建物現況構造調査を実施した結果, 不同沈下等の不具合が確認されたため, 水道記念館として維持していくためには大規模な改修が必要となり相当の経費を要する。このような状況から今後の活用方法を明確にする必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

当記念館を維持（修繕）するに際し、文化的な価値にかかる判断が難しいことから、様々な実務において支障を来すことが想定される。これらの文化財建造物を健全に維持していくためには、現状と課題を把握し、保存・活用を図るために必要な事項や自主的に保存活用のために行うことのできる範囲等を明らかにしておく必要がある。そのため、これらの課題を解決し、文化財としての価値を将来に向け維持しながら、健全な形で保存・活用を図るため文化庁の指針に基づき「保存活用計画」を策定する。当計画に基づき、必要に応じ耐震診断や改修を行っていく。それらの実施にあたっては、国庫補助を積極的に活用していく。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

- ・文化財としての価値を将来に向け維持しながら、健全な形で保存・活用を図るため文化庁の指針に基づき「保存活用計画」を策定し、その計画に基づき、必要に応じ耐震診断や改修を国庫補助を活用しながら実施する。